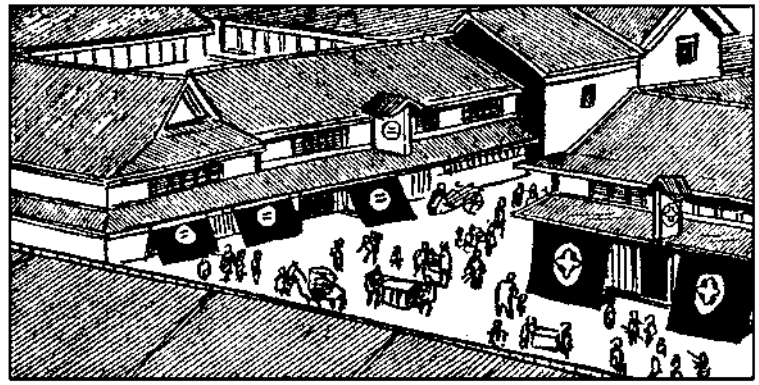
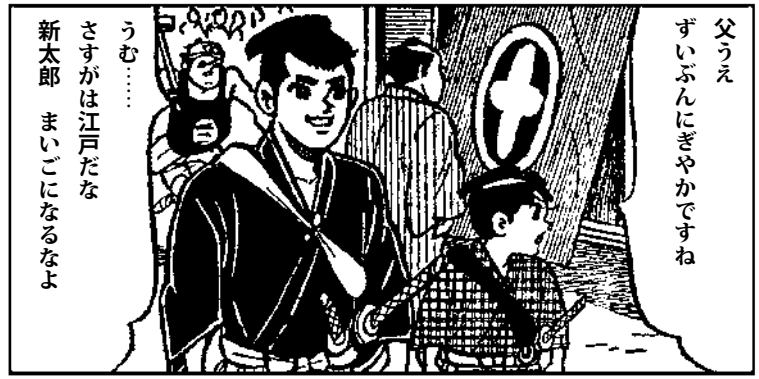
ししの子




父うえ
ずいぶんにぎやかですね
うむ……
さすがは江戸だな
新太郎　まいごになるなよ

いやだなあ　父うえ……
新太郎は　赤んぼうじゃ
ありません

こうみえても
もう一人まえ
の……

そこでおたちあい！
まず　この名刀のきれあじだ

二まいが四まい
となり　四ま
いが八まい
……

八まいが
十六まい
十六まいが
三十と
二まい
……

三十二まいが　ええと……

父うえ！

しまった！うっかりして父うえにはぐれてしまったぞ
よわいなあ

父うえ

ぶれいものっ

ごめんなさいよそみしてたので
武士につきあたっておいて　よそみしてたからで　すむとおもっているのかっ

ええいゆるさん
あっ

このやろう

かわいそうに
あのままだところされちまうぜ
ううむ

つよそうなおさむらいさん なんとか たすけてやって くれませんか
なに せ せっ しゃが
そうだ ひと つおねがいします

むむ…… しかし せっしゃ がでると ことが大きく なるでなっ
そんなことといってるまに あの子がころされちまい ますよ

まてっ

うむ
よし

さむらいのくせに しかも ふたりがかりで 子どもを いじめるとは…… はじをしりなさいっ
なに

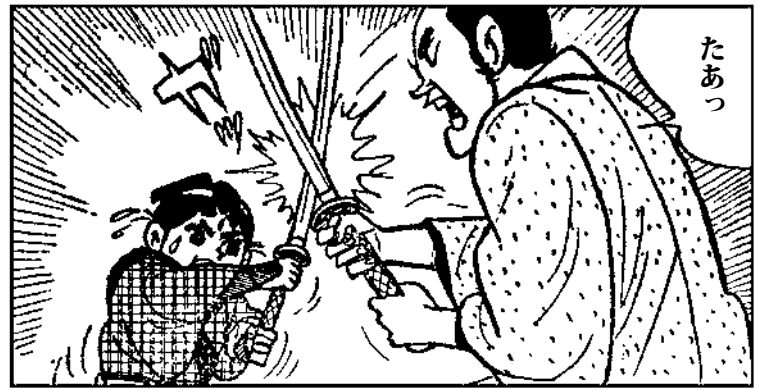
子どものくせに よけいなことをいうな
おもしろ い きさまが あいてに なるという のだな

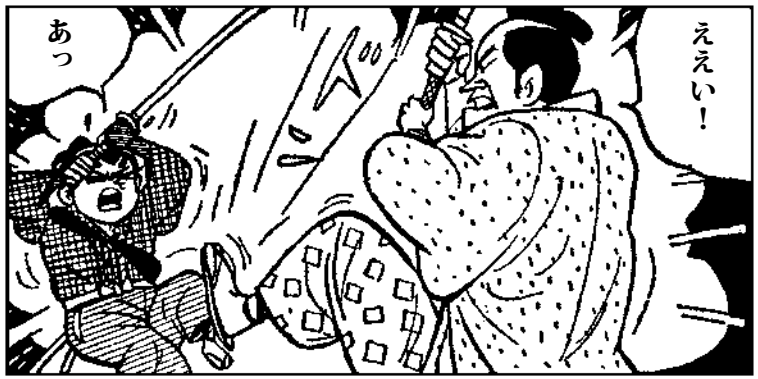
べ べつにそんなつもりは ないけど…… じょうしき で かんがえても わかる ことでしょ
こいつ 大ぐちをたた いておいて いまさら にげる気か!

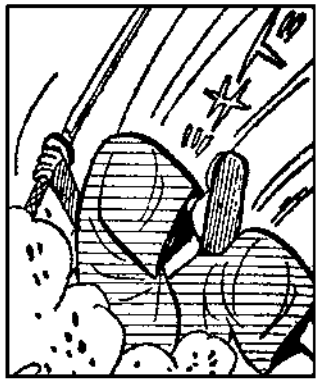
にげる！ちぇっ
にげたりするものか

こやつ！なまいきなよしっ

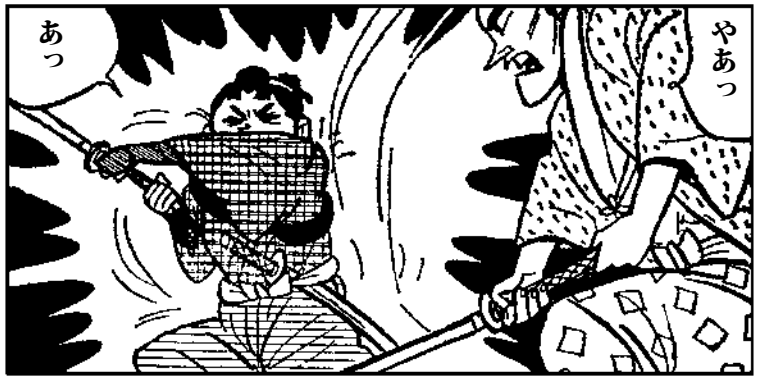
いくぞこぞう手かげんはせんぞ！
む

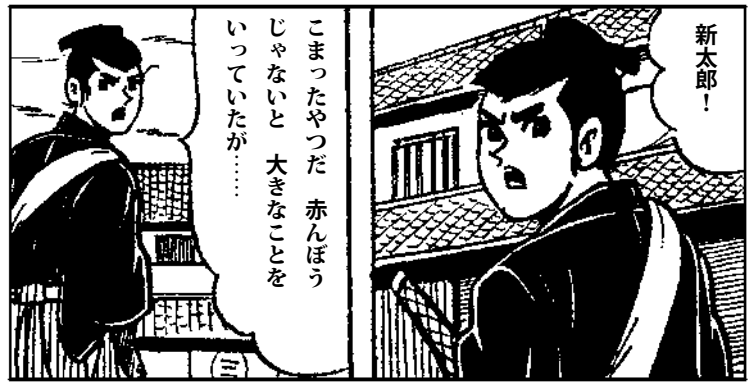

たあっ

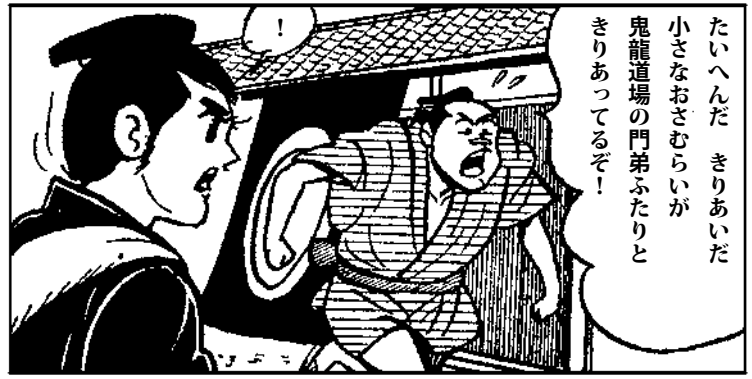

ええい！
あっ

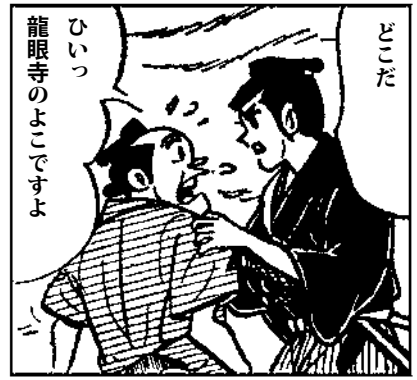


それっ
む


やあっ
あっ


新太郎！
こまったやつだ　赤んぼう
じゃないと　大きなことを
いっていたが……


たいへんだ　きりあいだ
小さなおさむらいが
鬼龍道場の門弟ふたりと
きりあってるぞ！
！


どこだ
ひいっ
龍眼寺のよこですよ

さっき　とおったところ
だ　するとやはり……

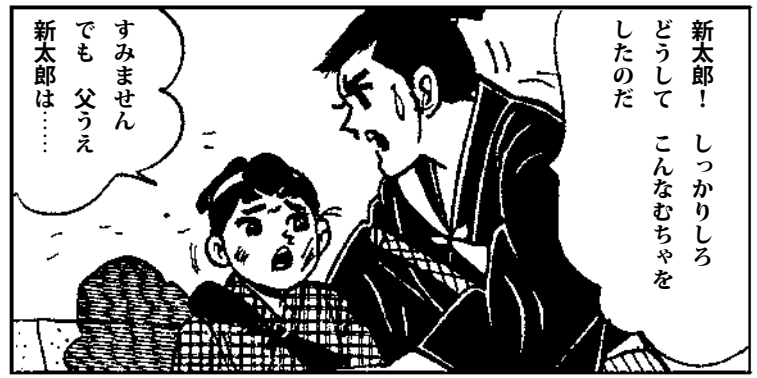
はあっ
はあっ
ふふふ
しぶとい
こぞうめ
こんど
こそっ

まてっ

新太郎

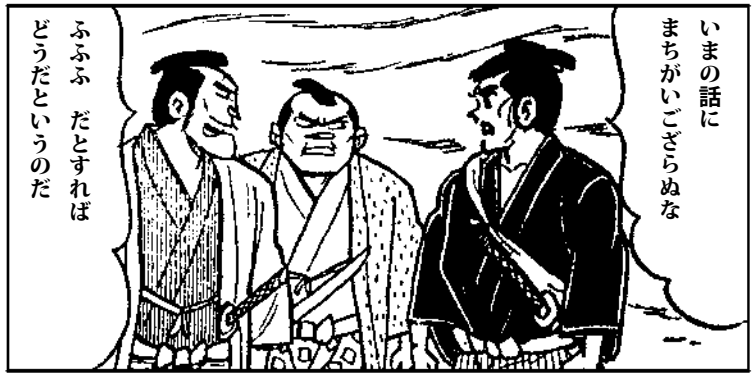
あっ
父うぇ

ふうっ
するする


新太郎！　しっかりしろ
どうして　こんなむちゃを
したのだ
すみません
でも　父うえ
新太郎は……

ぼっちゃんを
おこっちゃいけません
？
おはずかしいが
わたしに
ぼっちゃんの
十分の一の
勇気があれば
こんなこと
には……

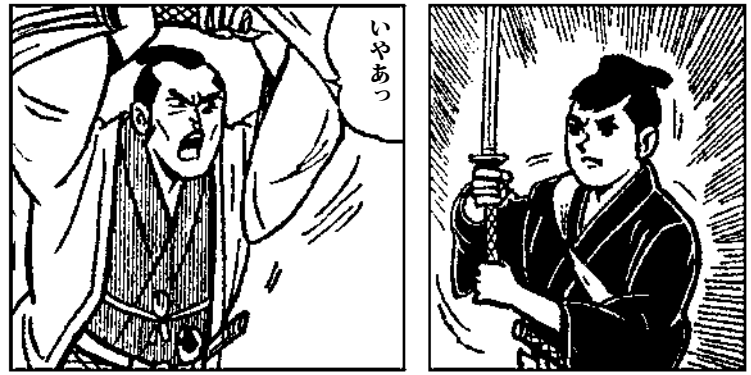
というのも　そこにいる
ふたりが　子どもに
らんぼうを……
そこで
ぼっちゃ
んが
たまり
かねて
とびだして
いったと
いう
わけ
でして

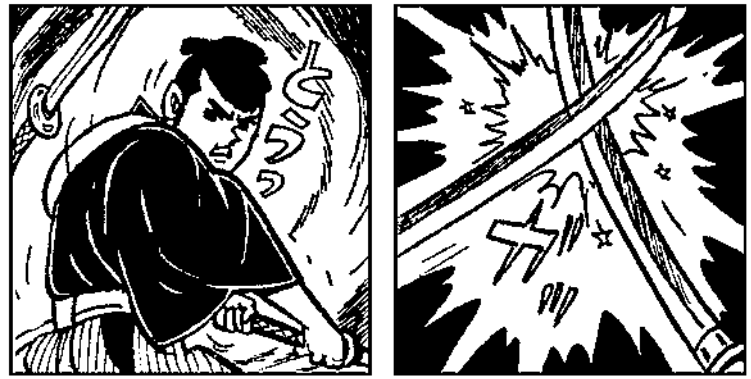

いまの話に
まちがいござらぬな
ふふふ　だとすれば
どうだというのだ

なにっ

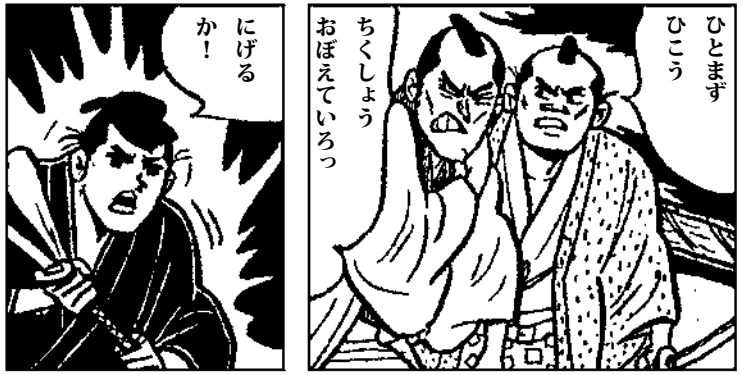
きる！

武士の風上にも
おけんやつ！
かくごっ
む！
くるか




いやあっ
ぐっ
ガッ

わっ

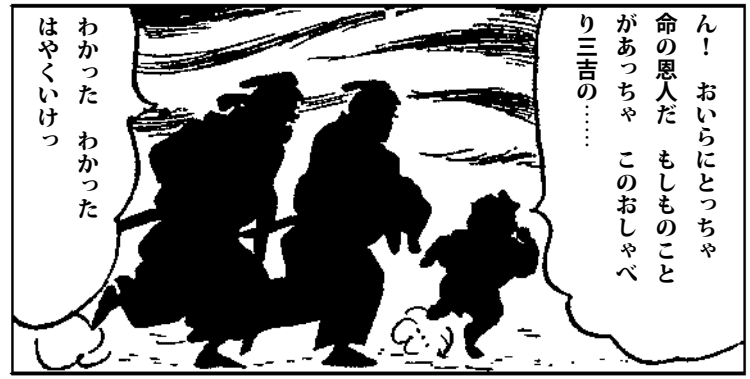

ひとまず
ひこう
ちくしょう
おぼえていろっ
にげる
か！

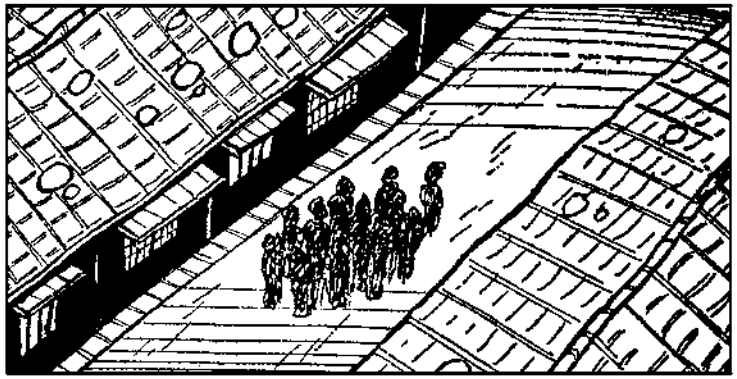
たいへんだ
ぼっちゃんのようすが
……
えっ

そうとう
きられています
重体ですぞ
……
このちかくに
医者は……

医者なら おいらの どん底長屋に 日本一の 先生がいる
どん底長屋といえば 江戸一の びんぼう 長屋だ

ちぇっ びんぼうは江戸一 でも うでは日本一さ おじさんの ガマの油より は たしかだよ
なにっ
とにかく あんない してくれ いそがねば……


ん! おいらにとっちゃ 命の恩人だ もしものこと があっちゃ このおしゃべ り三吉の……
わかった わかった はやくいけっ



だいじょうぶでござろ うかのう おそいよう じゃが
む
だい じょうぶ ですよ おさむらいさん

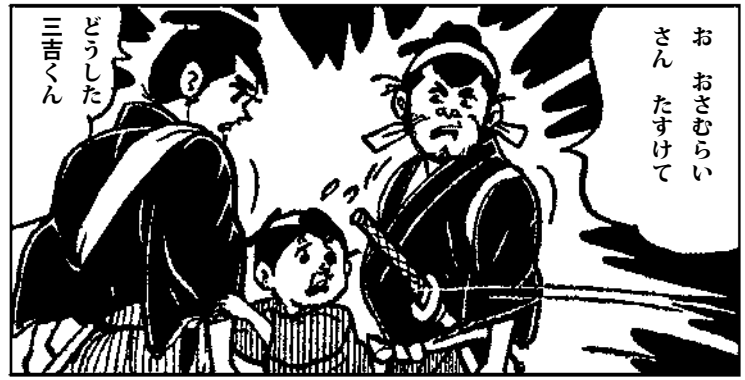
なにしろ珍庵先生にかかっ たら いきる人だって しんじゃうっていうん だから
え

ばかっ ぎゃくじゃ ねえかっ
ああら

わたしそんなこと
いったかしら
こういう
やつですよ
おっちょこ
ちょいで
あわてん
ぼうで
……

おまえさん
もういちど
いって
ごらん
ひぇっ

ま　まち
やがれ！


お　おさむらい
さん　たすけて
どうした
三吉くん

このやろう　さあ
こっちへこいっ
いやだよ
いったい
どうしたのですか

このやろうが
ぼんやりしていたために
ぼっちゃんが　あんなめに
あったかとおもうと
はらがたって……
いや　それはちがう
わるいのは　道場のふたりだ
しかってはいかん

そういうことだ
だいたい
おとっちゃん
は……
なにっ

だいたい
おまえ
さんは
ひいっ